

奈良・法華寺

1 所在地 奈良市法華寺町

2 調査期間 平城第三六三次調査 二〇〇三年(平15) 八月

一二月

3 発掘機関 奈良文化財研究所平城宮跡発掘調査部

4 調査担当者 代表 岡村道雄

5 遺跡の種類 寺院跡

6 遺跡の年代 古代～現代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本調査は、法華寺境内の防災施設改修工事の事前調査として実施



(奈良)

したもので、現在の堂舎の周辺に幅約1mの細長いトレンチを断続的に設定した。調査面積は合計で約三二一㎡である。調査の結果、七世紀前半の土坑のほか、法華寺創建以前と推測される掘立柱の遺構、奈良時代以降江戸時代にいたる各時

期の整地と遺構を確認した。ここで報告する木簡は、薬師堂西方に設定した南北トレンチの土坑SK八六五九から出土した。木簡は一〇点(うち削屑二点)で、いずれも江戸時代に属する。共存遺物には、板状・棒状木製品、かなな屑の如き木片、鉄釘などがあり、近世における寺の補修などに際して廃棄されたものと推測される。

8 木簡の釈文・内容

(1) 九月

六十三

四十八

荷

(155)×(75)×4 081

(2)

〔八月カ〕
□□□□□□□□

(178)×(23)×2 081

(3)

〔二カ〕
□□

70×(30)×13 081

釈読できる三点のみの釈文をあげた。(1)は上下折れ、右割れ。(2)は大ぶりの字が書かれる。上下折れ、左の一部削り、右割れ。(3)は上下二次的切断か。〔二カ〕としたが、横線の上に点が付された可能性もある。

9 関係文献

奈良文化財研究所『奈良文化財研究所紀要 二〇〇四』(二〇〇四年)

(山本 崇)